



2025年9月5日

各 位

大阪市北区大深町3番1号  
株式会社 アイ ル  
代表取締役社長 岩本 哲夫  
(コード番号: 3854 東証プライム)  
問い合わせ先 取締役 経営管理本部長 戸田泰裕  
電話番号 06-6292-1170 (代表)

## 中期経営計画 (2026年7月期～2028年7月期) 策定に関するお知らせ

本日開催の取締役会において、2027年度(2028年7月期)を最終年度とする3ヶ年の中期経営計画を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

### 1. 中期経営計画 (2026年7月期～2028年7月期) 策定の背景と目的

当社グループはこれまで、リアル(基幹システム「Aladdin Office」等)とWeb(「Aladdin EC」、「CROSS MALL」、「CROSS POINT」等)をワンストップで開発・提案・保守する独自の「CROSS-OVER 戦略」を展開してまいりました。この戦略により、顧客企業の業務全体を最適化する提案を可能とし、他社にはない競争優位性を確立してまいりました。また、創業以来追求してきた「収穫増型事業モデル」は、長期目線で蓄積し続けた信頼とノウハウが当社グループの成長を加速度的に推進するものであり、かつ一朝一夕では競合他社には容易に模倣されず、当社グループの規模拡大に伴いさらなる成長を実現することが可能となります。そのような中、昨今のAI技術の急速な進化など、当社グループを取り巻く事業環境は大きな変革期を迎えております。この変化を好機と捉え、これまでの強みをさらに昇華させ、将来にわたる企業価値の最大化を実現するため、新たな中期経営計画(2026年7月期～2028年7月期)(以下「中期経営計画」という。)を策定いたしました。

### 2. 中期経営計画の概要

#### (1) 将来ビジョン (目指す姿)

当社グループは、「産業プラットフォーマー」となることを目指します。これは、単にシステムを提供するだけでなく、サプライチェーン全体の再構築を主導し、卸売、製造、物流、小売から金融、人材に至るまで、多様な業種を有機的に結合させるものです。利害を超えた共創ネットワーク(生態系)の中枢を当社グループが担い、ユーザー企業およびパートナー企業の企業力向上

に貢献することを目指してまいります。

## (2) 計画期間

2026年7月期～2028年7月期（3ヶ年）

## (3) 本中期経営計画の位置づけ

本中期経営計画の期間を「成長投資加速期」と位置づけ、将来の非連続な成長を実現するための事業基盤・経営基盤を構築する期間と定めます。

Phase 1 売上拡大期（創業～2019年）：ビジネスモデルと販売チャネルを確立

Phase 2 収益構造改革期（2019年～2025年）：利益体質への転換を達成

Phase 3 成長投資加速期（2025年～）：次の成長に向けた変革と投資を実行

## (4) 基本方針および重点施策

将来ビジョン「産業プラットフォーム」の実現に向け、これまでの「CROSS-OVER戦略」をはじめとした「線」のビジネスから「面」のビジネスへと進化させるべく、以下の重点施策を推進します。

### ① データの「蓄積」から「活用」による新たなビジネスモデルの確立

当社の強みである基幹システム事業により集約及び蓄積された販売・購買・在庫などの各種データを、AI技術を最大限に活用しつつ、「データ分析」や「経営支援」といった新たな付加価値サービスを創出します。これは基幹システム市場で他社を圧倒する当社グループだからこそ実現可能な「基幹×AI」のビジネスモデルを確立します。

### ② 3つのテーマを軸にした構造改革

産業プラットフォームへの変革を支えるため、以下の3つのテーマを軸とした経営基盤の整備を進めてまいります。

・人材：

- 外部研修を活用し、AIを活用できる人材を育成する
- 基幹データを用いたデータ分析やコンサルティングができる人材を育成する
- 継続的な採用活動の実施に加え、一人当たり生産高を重視する

・R&D（研究開発）：

- 主力製品の継続的なアップデートと、他システムとの連携を加速する
- AIを取り入れた開発手法を確立する
- 製品にもAIを活用し、「基幹×AI」を実現する

・社内の仕組み：

- 迅速な経営判断を可能にする社内システムの刷新・統合を推進する
- AIツールの積極的な社内導入と活用を推進する
- 社内ノウハウを共有・活用できる社内システムを構築する

### 3. 中期経営計画の経営目標

【連結】

(単位：百万円)

	2025年 7月期	2026年 7月期	2027年 7月期	2028年 7月期
	実績	計画		
売上高	19,294	20,700	22,436	24,300
営業利益	4,818	5,250	5,753	6,312
(率)	(25.0%)	(25.4%)	(25.6%)	(26.0%)
経常利益	4,767	5,275	5,778	6,337
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,488	3,725	3,950	4,334

本中期経営計画では、成長投資を推進することにより、従来計画との一時的な差異がこのままでは発生いたします。ただ、従来計画を推進した場合、「既存ビジネスの延長であることによる社員数に比例した成長」、「AI活用に乗り遅れることによる他社との差別化に苦戦するリスク」により、将来的な成長曲線が鈍化する可能性がございます。前述の「産業プラットフォーム」を目指すべく、当社グループは、「新たなビジネスモデルの確立」、「社内の構造改革」を推進し、新たな成長曲線を描いてまいります。本中期経営計画における長期展望を実現した際には、当社グループは他社と次元の異なる領域に到達し、原価低減や経営スピードの向上による、さらなる成長速度の加速が見込まれます。この3ヶ年はそのための重要な布石とする期間であると考えております。

### 4. その他

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

中期経営計画の詳細につきましては別途開示しております「2025年7月期 決算概要」をご確認ください。

以 上